

November 30, 2021

【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり反発 米株上昇でリスク回避姿勢が後退

29日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は113.53円と前営業日NY終値(113.38円)と比べて15銭程度のドル高水準となった。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン株」の感染拡大への懸念から、前週末に今年最大の下げとなったダウ平均が一時380ドル超上昇すると投資家の過度なリスク回避姿勢が後退し円売り・ドル買いが先行。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.56%台まで上昇したこともドル買いを促し、アジア時間の高値113.88円を上抜けて一時113.96円まで上値を伸ばした。10月米住宅販売保留指数が前月比7.5%上昇と予想の1.0%上昇を大幅に上回ったことも相場の支援材料。その後、ダウ平均が下げに転じるとドル円にも売りが出て113.56円付近まで下押ししたものの、バイデン米大統領が「現時点でロックダウンは考えていない」との見解を示すと、米経済の先行きに対する過度な懸念が後退しダウ平均が再び350ドル超上昇。ドル円も113.83円付近まで強含んだ。もっとも、引けにかけては米長期金利の動向につれて113.50円台まで押し戻されている。

なお、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は明日30日の米上院銀行委員会で「オミクロン株はインフレの不確実性を増大させる」「オミクロン株は経済、雇用に下振れリスクをもたらす」「FRBはインフレが定着することを阻止するため手段を講じる」「インフレを加速させる要因は2022年にかけて継続」(証言原稿)との見解を示すと伝わった。

ユーロドルは3日ぶりに反落。終値は1.1291ドルと前営業日NY終値(1.1317ドル)と比べて0.0026ドル程度のユーロ安水準だった。21時前に一時1.1295ドル付近まで下げ渋る場面もあったが、アジア時間に付けた日通し高値1.1320ドルを上抜けることは出来なかった。米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いがじわりと強まると、一時1.1258ドルと日通し安値を付けた。ただ、引けにかけては1.1293ドル付近まで持ち直した。なお、11月独消費者物価指数(CPI)速報値は予想より強い内容となったものの、相場の反応は限られた。

ユーロ円は小幅続落。終値は128.19円と前営業日NY終値(128.35円)と比べて16銭程度のユーロ安水準。アジア時間に一時127.49円と2月18日以来の安値を付けた影響が残ったものの、海外市場では下値の堅さが目立った。欧米株価の反発で投資家の過度なリスク回避姿勢が和らぎ円売り・ユーロ買いが出た。23時過ぎに一時128.38円付近まで持ち直した。

もっとも、「オミクロン株」の詳細についてはまだ不明な部分が多く、積極的に上値を迫る展開にはならなかった。アジア時間に付けた日通し高値128.67円を上抜けることは出来なかった。

【本日の東京為替見通し】ドル円の上値は重い、原油・米金利の戻しが限定的

本日の東京時間のドル円の上値は限られるか。本日は月末5・10日(ゴト一日)ということもあり、東京仲値を中心に相応のドル買い期待がある。しかしながら、昨年11月末は国内輸出企業を中心に月末絡みのフローは売りが優勢となった。東京仲値だけでなく、ロンドンフィキシングを含め月末の特殊玉が出ることが予測されることで、市場は神経質な動きになりそうだ。

一部ではリスク回避の動きが後退したとの声もあるが、WTI原油先物は一時72ドルまで上昇後70ドル割れまで弱含み、米金利の上げ幅も大きくはなかった。また、パウエルFRB議長が日本時間早朝に「新型コロナウイルスの変異型『オミクロン株』はインフレの不確実性を増大させる」「オミクロン株は経済、雇用に下振れリスクをもたらす」とも述べているように、これまでのように米金利上昇のドル買いトレンドにすぐに戻ることを期待するのは時期尚早で、ドル円の上値は限られるだろう。商品先物取引委員会(CFTC)が発表する円先物のみのポジション状況も、11月23日時点で円ショートが拡大している。26日の円買いでポジションの変化はあっただろうが、いまだに円ショートを保持している市場参加者も多いことで、上昇局面では円ショートの巻き戻しも出そうだ。

オミクロン株以外では、米国の債務上限の期限が近づいていることにも注意を払いたい。今月中旬にイエレン米財務長官は議員へ「12月15日以後には財源が不足するシナリオがある」との書簡を送っている。残り約2週間となっていることで、再び米議会の動きからも目が離せないことになりそうだ。

なお、本日は各国から経済指標の発表が多い。その中で日本時間では11月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)が一番の注目となりそうだ。市場では景況の強弱を判断する節目50を割り込むと予想されている。市場がリスクオフに傾いていることで、ネガティブサプライズに要警戒となりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 10月完全失業率（予想：2.8%）
- 08:30 ◎ 10月有効求人倍率（予想：1.17倍）
- 08:50 ◎ 10月鉱工業生産速報（予想：前月比1.8%／前年比▲4.4%）
- 14:00 ◇ 10月新設住宅着工戸数（予想：前年比5.2%）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 09:30 ◇ 7-9月期豪経常収支（予想：278億豪ドルの黒字）
- 09:30 ◎ 10月豪住宅建設許可件数（予想：前月比▲2.0%）
- 10:00 ◎ 11月中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：49.6）
- 16:00 ◎ 7-9月期トルコ GDP（予想：前年比7.5%）
- 16:45 ◎ 7-9月期仏 GDP 改定値（予想：前期比3.0%）
- 16:45 ◇ 11月仏 CPI 速報値（予想：前月比0.2%／前年比2.6%）
- 16:45 ◇ 10月仏卸売物価指数（PPI）
- 16:45 ◇ 10月仏消費支出（予想：前月比横ばい）
- 17:00 ◇ 11月スイス KOF 景気先行指数（予想：109.0）
- 17:55 ◎ 11月独雇用統計（予想：失業率5.3%／失業者数変化▲2.50万人）
- 18:00 ◎ ビルロワドガロー仏中銀総裁、講演
- 18:30 ◎ 7-9月期南アフリカ失業率
- 19:00 ☆ 11月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比4.4%）
- 19:00 ☆ 11月ユーロ圏 HICP コア速報値（予想：前年比2.3%）
- 21:00 ☆ 7-9月期インド GDP（予想：前年同期比8.4%）
- 21:00 ◎ 10月南アフリカ貿易収支（予想：230億ランドの黒字）
- 22:00 ◎ マン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 22:30 ☆ 9月カナダ GDP（予想：前月比0.1%／前年比3.3%）
- ☆ 7-9月期カナダ GDP（予想：前期比3.0%）
- 23:00 ◇ 9月米住宅価格指数（予想：前月比1.2%）
- ◇ 7-9月期米住宅価格指数
- 23:00 ◎ 9月米ケース・シラー住宅価格指数（予想：前年比19.3%）
- 23:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、議会証言
- 23:45 ◎ 11月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：67.0）
- 24:00 ◎ 11月米消費者信頼感指数（予想：110.9）
- 24:00 ☆ パウエルFRB議長とイエレン米財務長官が米上院銀行委員会でコロナウイルス支援・救済・経済安全保障（CARES）法について証言
- 1日 00:30 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、あいさつ
- 1日 03:00 ◎ クラリダFRB副議長、講演

1日

<国内>

- 08:50 ◇ 7-9月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額）
- 10:30 ◇ 安達誠司日銀審議委員、あいさつ

<海外>

- 06:45 ◎ 10月ニュージーランド（NZ）住宅建設許可件数
- 09:30 ☆ 7-9月期豪 GDP
- 10:45 ◎ 11月 Caixin 中国製造業 PMI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

29 日 07:30 カナダ保健相
「カナダ(オタワ)で 2 件のオミクロン株感染を確認した」

29 日 13:19 岸田首相
「外国人の入国、30 日から全世界を対象に中止」
「南アからの帰国邦人もリスクに応じて隔離措置」

29 日 16:52 シュナーベル欧州中央銀行(ECB)専務理事
「ECB はインフレ率が 11 月にピークを打つと想定」
「インフレ率は来年 2%に向けて徐々に低下するだろう」

29 日 17:39 黒田日銀総裁
「気候変動オペは日本の市場構造を踏まえると最も効果的な方法」

29 日 17:52 デギンドス ECB 副総裁
「インフレ高進は一時的な要因によるもの」

29 日 22:35 南アフリカ保健相
「WHO との対話で、南アフリカ地域への差別的な渡航禁止措置の解除を要求」

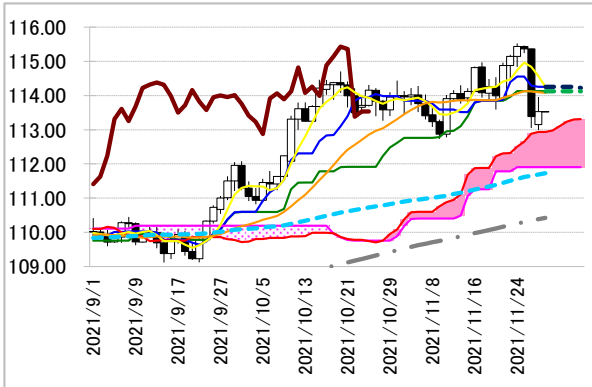
30 日 00:11 イランの核協議に関する声明
「米国の離脱以降にイランに課された全ての制裁措置の解除なしに、2015 年の合意に戻ることはできない」
「米国の核合意への復帰、過去の苦い経験の再発を防ぐ保証がなければ意味がない」

30 日 02:09 バイデン米大統領
「新型コロナウイルスの変異型『オミクロン株』は懸念要因だがパニックではない」
「オミクロン株への最良の対処法はワクチン」
「新型コロナワクチンのブースター接種が必要」
「この冬、米国で経済閉鎖やロックダウンは不要」

30 日 03:35 米ホワイトハウス
「戦略的石油備蓄の放出計画を再検討していない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

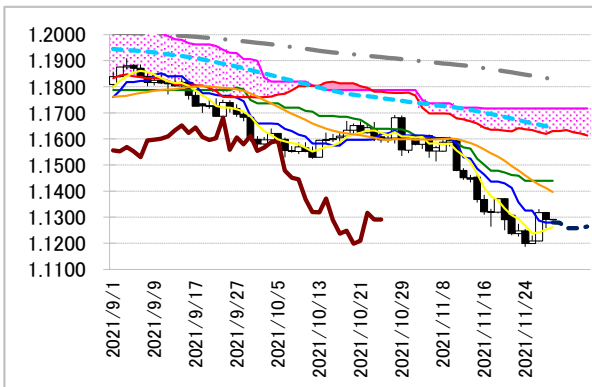


<ドル円=114円の節目を回復しきれずやや伸び悩む>

小陽線引け。一目均衡表・雲の上限 112.93 円を支えに、113.96 円まで戻りを試す展開となった。

ただ、114 円の節目回復に至らず伸び悩んだ。一目均衡表・基準線 114.13 円、転換線 114.26 円などの抵抗も上値に控えている。このまま停滞感を払しょくしきれず、年初来高値圏のレンジへ戻す勢いを取り戻せないリスクも意識されつつある。

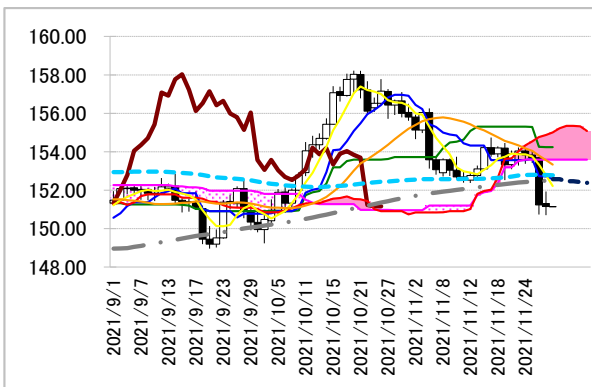
レジスタンス 2	114.49(11/23 安値)
レジスタンス 1	114.13(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	113.53
サポート 1	112.93(日足一目均衡表・雲の上限)



<ユーロドル=転換線近辺で不安定な動き続きそう>

下影小陰線引け。上抜けた一目均衡表・転換線 1.1280 ドルは低下傾向で強い支えとならず、一時 1.1258 ドルへ下押し動きとなった。転換線を再び上回り 1.1291 ドルへ戻して NY を引けている。しかし、同線は 2 日後にも 1.1259 ドルへ下押し見込み。転換線近辺で不安定な推移が続きそう。

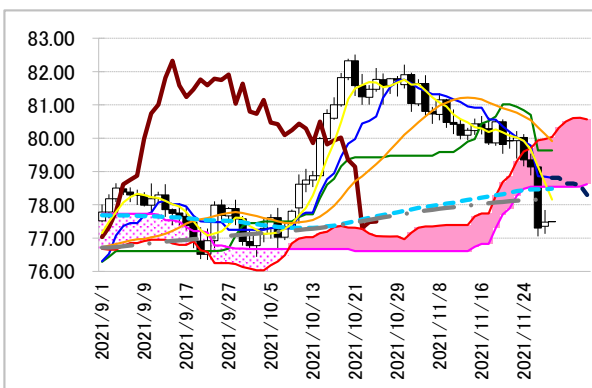
レジスタンス 1	1.1331(11/26)
前日終値	1.1291
サポート 1	1.1241(11/24-26 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円=200日線を上回る局面もあるか>

小陰線引け。一時 150.70 円と、先週末 26 日につけた 150.73 円をわずかながら割り込んだ。しかし、10 月 4 日以来の安値圏で下げ渋る動きは継続。152 円回復をうかがう場面もあった。下方リスクを抱えつつも、再び上値を試す流れが勢いづけば、152.50 円前後で推移する 200 日移動平均線を上回る局面もありそう。ただ、低下傾向の一目均衡表・転換線 152.58 円が抵抗となり、上伸を妨げることが考えられる。

レジスタンス 1	151.93(11/29 高値)
前日終値	151.15
サポート 1	150.70(11/29 安値)



<NZドル円=10/7以来の安値圏付近で底堅い>

小陽線引け。昨日の下値は 77.13 円までと、先週末につけた 77.05 円を割り込むことなく、10 月 7 日以来の安値圏付近での底堅さを維持した。78.40 円台で上昇中の 90 日移動平均線を追うような戻りも想定できる。しかし、一目均衡表・雲の下限 78.54 円は抵抗となり、上値を抑えることになりそう。

レジスタンス 1	78.21(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	77.48
サポート 1	76.94(10/7 安値)

